

科目名/提供大学名	地域の自然と環境(福井や日本海地域を中心に)
科目名(英文)	Nature and Environment region (focus on Fukui and Sea of Japan)
対象学年	原則として、全学年。
開講時期	前期・金曜5限目
単位数	2単位
科目区分	選択(地域コア科目群:「持続可能な社会・環境づくり分野」)
授業形態・開講形態	講義
担当教員名	徳永雄次 他
オフィスアワー	講義の前後に質問等を受け付けます。
教員メールアドレス	tokunaga@matse.u-fukui.ac.jp
概要	地域環境研究教育センターの兼任教官を中心に、自然科学、医学及び工学のみならず、人文科学、生活科学等の教員が毎回交代で地球環境問題の中でも特に地域社会や日常生活に直接影響を及ぼす問題・課題について述べる。例えば、環境問題、自然災害、気象および歴史について、特に福井や日本海地域に特化した話題について講義を行う。
学習・教育目標との関連	各大学の目標との関連は、科目の提供大学側では書けないと思われます。
授業目標・目的	15名の教員が各自研究している、或いは専門とする環境問題について解説する。そのため、地域の自然と環境という名の付く広い範囲の分野の入門となる内容であるため、その内容の理解が目的となる。また福井や日本海地域に関する事項が多くなるので、その特徴的な事項についても様々な角度から理解する。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input checked="" type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input type="checkbox"/> 選択能力 <input type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	地域の自然や環境問題の広がりを理解し、今後の勉学の入門となることを期待する。多岐に渡る分野からの環境を講義するので、それぞれを深く理解することは困難であるが、環境問題を多面的な角度から捉えることができるようになること、また福井や日本海地域における特徴を把握すること。
授業計画・授業内容	① ガイダンスと地域環境活動について (工学・材料開発 徳永雄次) ② 福井平野の形成と豪雨災害 (教育・理数教育 山本 博文) ③ 身近な和漢生薬と健康環境 (医学・分子生命化学 藤井 豊) ④ 日本海周辺に関する日本文学 (教育・言語教育 中川 智寛) ⑤ 日本の山川と森 (国際地域学部 月原 敏博) ⑥ 地域が大地震に襲われたら～福井地震の事例に学ぶ～ (医学部・救急部 木村 哲也) ⑦ 古代の越前・若狭 (教育・社会系教育 門井 直哉) ⑧ 福井県と囲碁 (工学・生物応用 高橋 一朗) ⑨ 平成18年豪雪の被害状況と近年の大雪 (国際地域学部 井上 博行) ⑩ 日本海地域の道路の雪問題と対策 (工学・建築建設 寺崎 寛章) ⑪ 環境負荷の小さい交通まちづくり (工学・建築建設 川上 洋司) ⑫ 福井県周辺の地震環境 (工学・建築建設 小嶋 啓介) ⑬ 白山における多雪環境と植物群落の成立 (教育・理数教育 西沢 徹) ⑭ 雪国の地域づくり・まちづくり (工学・原子力 川本 義海) ⑮ 地域と住まい (工学・建築建設 菊地 吉信)
	ただし、2回目以降都合によりテーマ・担当教員及び順番を入れ換えることがある(ガイダンス時に連絡する)。
授業方法	15名の教員による地域の自然や環境問題に関連する専門分野を丁寧に解説する講義
キーワード	日本海地域, 環境, 自然, 社会, 地域, 地域の自然と環境問題
教科書	特に特定しない。
参考書	特に特定しない。
評価方法・評価基準	毎時間の終わりに課すレポート(小テスト)の総和によって決定する
関連科目	日本海地域の自然と環境
履修の要件	なし
必要な事前・事後学習	講義テーマに関連した事項を事前に調べておき、事後学習として講義内容で興味を持った点について、さらに深く調べ、まとめる。
その他・注意事項	